

横浜国立大学・ワンダーフォーゲル・クラブの愛唱歌集

2017年・YWV創部60周年記念



落成直前の苗名小屋:YWV OB 会 HP より



目次

1. みはるかす
2. 赤いヤッケ
3. 穂高よさらば
4. シーハイルの歌
5. 山の友よ
6. 岳人の歌
7. いつかある日
8. 山の子の歌
9. 新人哀歌
10. 知床旅情
11. 雪山に消えたあいつ
12. 坊がつる讃歌

編集にあたり、7期 服部七郎さん、9期 鈴木弥栄男さん作成の歌集より抜粋させて頂きました。

著作権フリー画像は右記のサイトより転用 <https://www.photo-ac.com/>

1. みはるかす

横浜国立大学・学生歌

作詞 鶴若英子 学・教 34 卒

作曲 大根田 諭 工・機 37 卒



みはるかす 青海原に
 のび行きて 尽きせぬものは われらが思い
 緑濃き丘にのぼりて
 共に学ばん 共に語らん わが友よ



新しい世を 作るもの
 光あり 望みを胸に われらが道を
 悔いのなきその日々を
 共に進まん 共に学ばん わが友よ

横浜国立大学・常盤台キャンパスの航空写真
 青海原は見えますが、清水ヶ丘の緑濃き丘は？

Moderato
mf

1. みはるかす あおをばらにのび
 2. あたらしき あよをつくるものひか

ゆきてつきせぬものはわれらがおもいみどり
 ありのぞみをむねにわれらがみちをくい

りこきおかにのぼりてともにかたらんとも
 のなきそのひきともにすすまんとも

にまなぼん わが一同よ
 にまなぼん わが一同よ

2. 赤いヤツケ

作詞、作曲 不詳

赤いヤツケに 夕焼け小焼け
ほんにお前は おしゃれ者
* 山よさよなら 呼ぶなよ山よ
町に帰って行く俺を 町に帰って行く俺を



教えられたよ 氷や雪を
抱いてこらえて いる山に
(*くりかえし)

山よわかるか ピッケルふった
山の男の あいさつを
(*くりかえし)

いつかあの娘と ウェディングベルを
山の頂上で 鳴らしたい
(*くりかえし)

3. 穂高よさらば

作詞 不詳、作曲 小関裕而

穂高よさらば また来る日まで
奥穂に映える あかね雲
返りみすれば 遠ざかる
まぶたに残る ジャンダルム



穂高よさらば また来る日まで
北穂に続く 岩の峰
返りみすれば 遠ざかる
まぶたに残る 槍ヶ岳

穂高よさらば また来る日まで
前穂に続く 雪の原
返りみすれば 遠ざかる
まぶたに残る 又白池

岩場よさらば また来る日まで
明神岳の 岩の肌
返りみすれば 遠ざかる
まぶたに残る クルンゼ

4. シーハイルの歌

作詞 林 恒太郎

作曲 鳥取 春陽

岩木のおろしが 吹くなら吹けよ
山から山へと われらは走る
昨日は梵珠嶺 今日また阿闍羅
煙立てつつ おおシーハイル



9期 鈴木弥栄男氏 ハケ岳外ウスキー場

ステップターンすりゃ たわむれかかる
杉の梢よ 未練の雪よ
心は残れど エールにとどめ
屈伸滑降で おお シーハイル

夕日は赤々 シュプール染めて
辿る雪道 果てさえ知れず
町にはちらほら 灯火がついた
ラッセル急げよ おお シーハイル

5. 山の友よ

成蹊大学山岳部歌

薪割り 飯炊き 小屋掃除
みんなで みんなで やったっけ
雪解け水が 冷たくて 苦労したことあったっけ
今では遠く みんな去り 友をしのんで仰ぐ空



46期 肥塚愛氏の作品 厳冬期の宝剣岳

前傾 外傾 全制動
みんなで みんなで やったっけ
雪が深くて ラッセルに 苦労したことあったっけ
今では遠く みんな去り 友に便りの筆をとる

唐松 萌ゆる 春山に
みんなで みんなで やったっけ
思わぬ雪に ワカン履き 苦労したことあったっけ
今では遠く みんな去り 友の姿を夢にみる

6. 岳 人 の 歌

作詞、作曲 不詳
YWV3 期のテーマソング

星が降るあのコル グリセードで
あの人は来るかしら 花をくわえて
アルプスの恋歌 心ときめくよ
なつかしの岳人 やさしかの君よ



9 期 鈴木弥栄男氏 白山の黒百合



白樺にもたれるは いとし乙女が
黒百合の花を 胸に抱いて
アルプスの恋歌 心ときめくよ
なつかしの岳人 やさしかの君

7. い つ か あ る 日

訳詞 深田 久弥
作曲 西前 四郎

いつかある日 山で死んだら
古い山の友よ 伝えておくれ
母親には 安らかだったと
男らしく死んだと 父親には



伝えてくれ いとしい妻に
俺が帰らなくても 生きていけと
息子たちに 俺の踏み跡が
ふるさとの岩山に 残っていると

友よ山に 小さなケルンを
積んで墓にしてくれ ピッケル立てて
俺のケルン 美しいフェースに
朝の陽が輝く 広いテラス

8. 山の子の歌

作詞 不詳、作曲 坂下茂己
YVV7 期のテーマ・ソング

歌声が
あの小道にひびけば
あの森陰 あの谷間
山彦のうた
山の子は 山の子は
歌が好きだよ

雲が去り
青いみ空が見られりや
歌いましょう
山鳩と 兄と妹
山の子は 山の子は
みんな仲良し



9 期 鈴木弥栄男氏の作品 赤石岳より荒川三山

雨が降り
てるてる坊主が泣いても
私たちは 泣かないで
山をみつめる
山の子は 山の子は
みんな強いぞ



28 期新錬 2 次奥秩父

9. 新人哀歌

作詞 作曲 不詳

1. いいぞいいぞと おだてられ
死に物狂いで 来てみれば
朝から晩まで 飯たきで
景色なんぞは 夢のうち
2. チーフリーダーは 爺くさい
サブリーダーは 婆くさい
あとのメンバーは エロくさい
メッチェン通れば 頭右
3. 二年部員は 小生意気
先輩なにかと 話好き
地獄の二丁目 山岳部
好んではいる 馬鹿もいる
4. 蝶よ花よと 育てられ
何の苦勞も 知らないで
ポッカ稼業に 身をやつし
泣き泣き登る 雪の山
5. 家へ帰ればお坊っちゃま
山へはいれば 新部員
何の因果でしごかれる
まぶたに浮かぶ 母の顔
6. いわゆるアノコはお嬢さま
おれはしががない 山がらす
月を眺めてあきらめる
笑ってくれるな お月様

10. 知 床 旅 情

作詞 作曲 森繁久弥

知床の岬に はまなすの咲くころ
思い出しておくれ 俺たちのことを
飲んで騒いで 丘にのぼれば
遥か国後に 白夜は明ける



旅の情か 酔うほどに さまよい
浜に出てみれば 月は照る波の上
君を今宵こそ 抱きしめんと
岩かげに寄れば ピリカが笑う

別れの日は来た ラウスの村にも
君は出て行く 峠を越えて
忘れちゃいやだよ 気まぐれカラスさん
私を泣かすな 白いかもめを

11. 雪山に消えたあいつ

作詞 沢ノ井千江兒

作曲 上條たけし

山が命と 笑ったあいつ
山を一番 愛したあいつ
雪の穂高よ こたえておくれ
俺に一言 教えておくれ
なんで吹雪に あいつは消えた



重いザイルを 担いだあいつ
銀のピッケル 振ってたあいつ
山をこの俺 うらみはせぬが
あんないいやつ どこにもいない
なんで吹雪に あいつは消えた

夢に破れて 帰らぬあいつ
雪に埋もれて 眠ったあいつ
山の木霊よ 返しておくれ
俺に もいちど やさしい笑顔
なんで吹雪に あいつは消えた

12. 坊が つる 讃 歌

作詞 神尾明正
補作 松本マサ夫
作曲 竹山仙史



くじゅう 平治岳

1. 人みな花に 酔うときも
残雪恋し 山に入り
涙を流す 山男
雪解(ゆきげ)の水に 春を知る
2. ミヤマキリシマ 咲き誇り
山くれないに 大船(たいせん)の
峰を仰ぎて 山男
花の情を 知る者ぞ
3. 四面山なる 坊が つる
夏はキャンプの 火を囲み
夜空を仰ぐ 山男
無我を悟るは この時ぞ
4. 出湯の窓に 夜霧来て
せせらぎに寝る 山宿に
一夜を憩う 山男
星を仰ぎて 明日を待つ
5. 石楠花谷の 三俣山
花を散らしつ 篠分けて
湯沢に下る 山男
メランコリーを知るや君
6. 深山紅葉に 初時雨
暮雨滝(くらぞめたき)の 水音を
佇み聞くは 山男
もののあわれを 知る頃ぞ
7. 町の乙女等 思いつつ
尾根の処女雪 蹴立てつつ
久住に立つや 山男
浩然の気は 言いがたし
8. 白銀(しろがね)の峰 思いつつ
今宵湯宿に 身を寄せつ
斗志(とし)に燃ゆる 山男
夢に九重の 雪を蹴る
9. 三俣の尾根に 霧飛びて
平治(ひじ)に厚き 雲は来ぬ
峰を仰ぎて 山男
今草原の 草に伏す